

青葉区明るい選挙推進作文コンクール

2024 入賞作品集



ぼく、「えら坊」！

平成9年12月25日生まれの青葉区の選挙マスコットキャラクター！区民の皆様からご応募いただいた519点のデザインの中から選ばれたんだ♪

青葉区民まつりなど各種イベントで、不正のない明るい選挙の推進や投票率の向上の呼びかけをしているよ。



☆明るい選挙推進協議会とは

- ① 不正のないきれいな選挙（寄附の禁止）
- ② 投票総参加の推進

を大きな柱として活動をしている団体で、全国の都道府県・市区町村に設置されています。

☆青葉区明るい選挙推進協議会とは

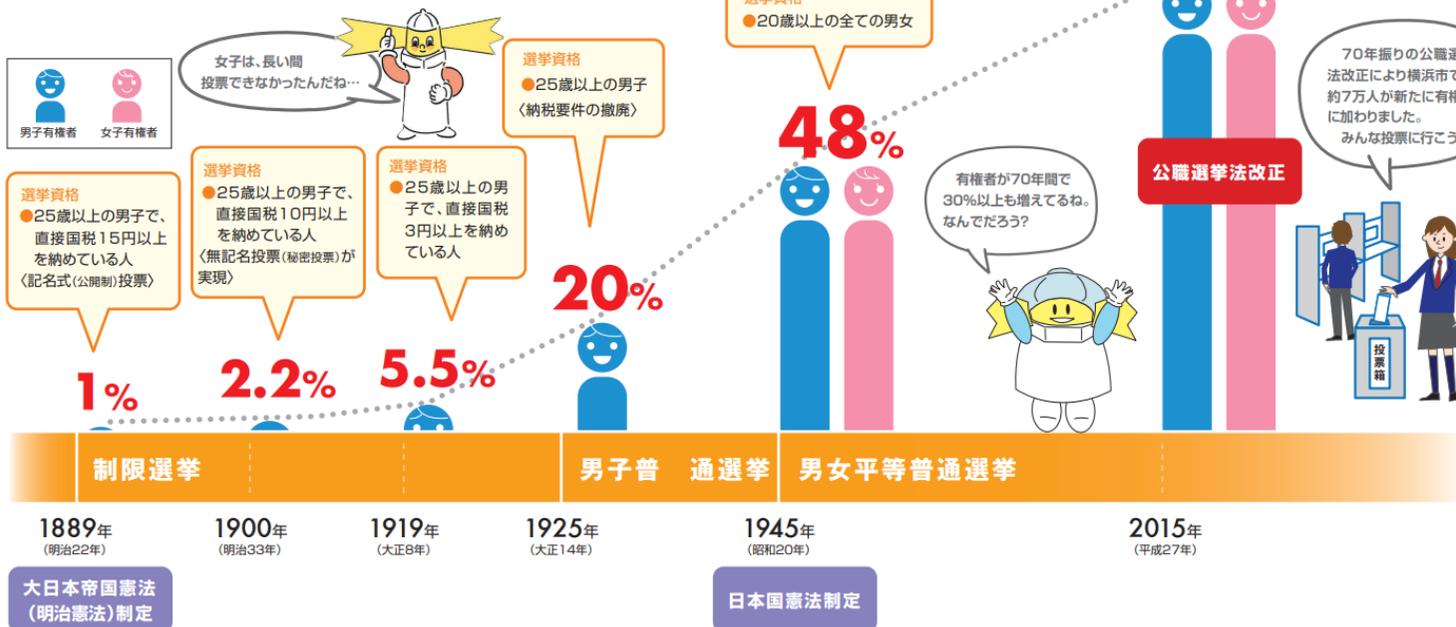
各種団体や自治会・町内会等から推薦された推進委員14名と推進員103名により構成され、選挙時の街頭啓発などの活動を行っています。



選挙に関するマメ知識

選挙権の歴史だよ。

当初は、人口の約1%しか投票できなかったんだね。



「選挙の3原則」



- 1 普通選挙
選挙権は、一定の年齢に達したすべての国民に与えられる
- 2 平等選挙
選挙人一人に一票。性別・財産・学歴などでの差別はない
- 3 秘密投票
誰が誰に投票したかが、わからないような方法で選挙がおこなわれる

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二四を終えて



青葉区明るい選挙推進作文コンクールは今年で第八回目の実施となりました。今年度に青葉区制三〇周年を迎えたことから、テーマを「未来の青葉区のために私たちができること」に変えて実施したところ、二七二作品もの応募がありました。十月には衆議院議員総選挙があり、青葉区のこと、選挙のことを考える機会が多かったのではないかと思います。

さて、私たち青葉区明るい選挙推進協議会は、推進員と事務局がメインとなって、区内中学校校長三名、青葉区選挙管理委員会委員長、青葉区長の皆様のご協力のもと、一つ一つの作品を読ませていただき、審査を行いました。

審査基準は次の通りです。

- 一 青葉区や地域に対する思いが感じられること。
- 二 青葉区について正しく理解していること。
- 三 知識、事実を並べるだけでなく、独自の発想、意見が述べられていること。
- 四 文脈がしっかりしていて、論理が一貫していること

結果、「青葉区明るい選挙推進協議会会長賞」、「青葉区選挙管理委員会委員長賞」、「青葉区長賞」が各一名、「えら坊賞(佳作)」七名、計十名の入賞を決定いたしました。

どの作品も、未来の青葉区に希望を抱いている素晴らしい作品でした。中学生ならではの純粋な気持ちや素直な感想、独創的な意見が述べられており、自分たちの未来を自分たちが主体となってより良いものになりたいという思いが感じ取れました。この作文コンクールを通じて感じたことを忘れずに、将来の選挙で貴重な一票を投じていただければ嬉しく思います。

今回寄せられた二七二作品の思いをしっかりと受け止め、今後も明るい選挙の啓発活動に尽力させていただきます。

ご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二四審査員長
青葉区明るい選挙推進協議会会長

岩谷 力

目次

― 青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞 ―

皆に知ってもらいたいこと

美しが丘中学校

三年

大橋 佐保

・
・
・
1

― 青葉区選挙管理委員会 委員長賞 ―

未来の区長の公約

市ヶ尾中学校

三年

片岡 逢人

・
・
・
3

― 青葉区長賞 ―

よりよい青葉区と、よりよい日本にするために

市ヶ尾中学校

三年

船江 優歌

・
・
・
5

― 佳作 えら坊賞 ―

つながる青葉区、つながる未来

あざみ野中学校

二年

岡崎 智子

・
・
・
7

緑あふれる青葉区

市ヶ尾中学校

三年

兼松 諒

・
・
・
8

青葉区に生く僕らの未来のために

市ヶ尾中学校

三年

菰田 悠叶

・
・
・
9

どの年代の人も幸せな青葉区へ

市ヶ尾中学校

三年

中村 凌世

・
・
・
10

生まれ育った青葉区

市ヶ尾中学校

三年

濱田 早紀

・
・
・
11

私たちの青葉区

美しが丘中学校

三年

鈴木 紗英

・
・
・
12

青葉区から世界を考える

くSDGsの意識を持ってく

鳴志田中学校

三年

佐藤 優治

・
・
・
13

青葉区明るい選挙推進協議会会長賞



皆に知ってもらいたいこと

美しが丘中学校 三年 大橋 佐保

私には身近に感じている横浜市の市議会議員さんがいる。テレビやネットで目にする政治家の人たちは、きつとこれからも会うことのないだと思いが、この人は私や、地域の為に動き支えてくれる人だ。

私には先天性の障害がある。そのため小学校には車で通学していた。中学入学の時には一人で通学できるようにと電動車椅子を用意してもらい、何度も通学路を練習した。ただ、通れる道もあるが、坂がきつく、荷物も重いため、ひっくり返ってしまうような不安があった。また、通学するための道には段差があるため、友だちとの通学をあきらめていたが、母がたくさんの人に相談して、地域のことならとその市議会議員さんを紹介してもらった。その議員さんは通学路の話聞いて、私と一緒に歩きながら困っていることを聞いてくれた。そして私に、「環境が整っていれば、あなたの障害は障害にならないよ。」

と励ましてくれた。さらに、青葉区がより良い町になるために直すのであって、私だけのために直すのではないと話してくれた。

私は将来車椅子で行けない場所をなくしたい。なぜならそれが青葉区をよりよく住みやすい町につながることになるからだ。私が住んでいるところは青葉区の中でも坂が多く、段差が多い地域だと聞いたことがある。だけど、この町が好きで、ここに住んでいる人たちが好きだから離れたくない魅力がある。どんな人でも、歩きやすく、楽しめる町づくりに私の知識や体験を活かして貢献したい。自分たちの未来のために、正しい知識と正しい目で候

補者を選び投票することが大切だということを知つてもらいたい。そのためには、世の中の動きに子供のときから興味を持つこと、それに対する考えを常に持つことが大切だと思う。大好きな青葉区のために十八で可能になる選挙の機会を大切にしていきたい。

△講評▽

坂道が多く、さらには道路の段差も多くある通学路を電動車椅子で通学した経験から、その大変さを相談した市会議員との交流を通して、議員を選ぶ選挙の大切さをしっかりと述べているすばらしい作品です。

「環境がととのつていけば、あなたの障害は障害にならないよ。」と話してくれた市会議員との交流から、青葉区では将来車椅子で行けないところをなくしたい。どんな人でも歩きやすく、楽しめて住みやすい町にするために、自分の知識や体験を生かし貢献したいとしっかりと考えられています。そして、18歳になったら、青葉区がよりよく住みやすい町になるように働いてくれる候補者を、正しい知識と正しい目で選びたいと、しっかりと述べていました。

青葉区選挙管理委員会委員長賞



未来の区長の公約

市ヶ尾中学校 三年 片岡 逢人

私は、四歳の時に名古屋から青葉区に転居してきました。名古屋に住んでいた記憶はないため、青葉区が私のふるさとだと思っています。今回はもし青葉区長になったらときの公約をしたいと思います。理由として、今の青葉区は二百以上の公園があります。これは横浜市でも一番多い数となっていて、公園が多い区というイメージを持っている人は多いと思います。そういった理由もあるのか若年層ファミリーに人気で、横浜市の中でも人口は三十万超のエリアです。横浜市北西部に位置していて「丘の横浜」と呼ばれている通り丘陵が多く、よく自然を感じられるような区になっています。また、子どもが遊べる「こどもの国」等、家族で遊べるスポットもいくつもあり、充実しています。しかし、もっと住みやすくよりよい街にもできると思います。実際、若年層ファミリーが生活している中、子育てにもっと優しくあるべきだと思ったり、こうすれば便利になるなと考えたりすることがあります。このことから、僕はもし青葉区長になった際に以下の公約をしたいと考えています。

一つ目に、先に話した通り青葉区は若年層ファミリーが多く、小さな子どもたちが住むエリアになります。そうすると例えば、自転車専用ロードを作る必要があると思います。日本では二〇一七年から自転車での事故が段々と増加傾向にあります。事故が多くなっている中、青葉区が積極的に取り組む事故が減らしていくことで、子どもが安全に暮らすことができます。子育てに優しいイメージを作り出す事ができます。

二つ目に、公園の数は多い区ではあるもののその面積

は小さいです。さらに、現在多くの公園でボールが使えなかつたりと大人数で遊ぶには適さない公園があります。そして、小さい公園では混雑していて、動きにくくなります。そのため、面積が広く、ボールが使える公園をもつとつくるべきです。面積が増えることで一人一人がゆとりをもって遊ぶことができます。

三つ目は高齢者と幼い子どもたちがかわる機会を増やす事が必要だと思えます。そのため、老稚園を作る事です。現在、核家族の割合が増え、小さな子どもたちが高齢者と関わる機会が減っています。地域として子どもたちを見守り、育んでいく必要があると考えます。また、青葉区に住む高齢者は増えてきているので、老稚園が必要になってくると思います。高齢者が小さな子どもたちと関わり、元氣やいい刺激を貰う事ができ、子ども側は両親以外の大人と関わることで成長に繋がります。そのため、老稚園を作ることで、幅広い年齢層の関われる機会を作り、地域活性化に繋がりたいと思えます。

以上のことを実施することで、今後よりよい青葉区を作っていくけると私は思います。

△講評▽

日々の生活の中で自分事として区の長所と問題点を実感し、青葉区をより住みよい町にしたいとの思いを区長の公約として「1. 自転車専用道路の建設」「2. ボール遊びのできる公園の拡充」「3. 老稚園の設置」の3点にまとめて提案しています。そのどれもが子供の健康、安全に欠かさないものであり、加えて核家族化が進む中で、お年寄りが子供たちの成長に寄り添える場を提供するという点が若者らしい柔軟な発想ですばらしいです。

青葉区長賞



よりよい青葉区と、よりよい日本にするために

市ヶ尾中学校 三年 船江 優歌

私たち家族が青葉区に引っ越してきて、もうすぐ丸十年になる。青葉区は、自然や公園、住宅が多く、静かでも住みやすい街だと思う。青葉区で有名なところと言えば「こどもの国」だと思うが、幼い頃は、お弁当を持って家族でこどもの国に行くのがとても楽しみだった。

一方で、引っ越してきて最初に思ったこと、そして今でも思っていることは、とにかく坂道が多いということである。家を出てすぐの道がもう急な坂道なのである。青葉区が坂道が多いというよりも、横浜市、それから田園都市線が坂道が多いようである。青葉区に来る前は、国の語源にもなっている平坦な国オランダに住んでいたのと、とにかく慣れるまで本当に大変だった。今でも夏の暑い日などは家を出て目の前の坂道を見ただけでげんなりする。私は小学生のときはサッカー、中学に入ってからテニスをしていたので足腰を鍛えるためのトレーニングだと思えば、坂道も悪くないと思っているが、母は、持病の腰痛が悪化したため、電動自転車を購入した。しかし、安くても電動自転車は十万円する。今は円安で物価高なのでもっと高い。家計にはだいたい負担である。

そこで、電動自転車の購入費用の補助金を青葉区で出したらいいのではと思う。調べたところ、電動自転車の補助金を出しているところは神奈川県では厚木市だけだった。横浜市に聞いたところ、そのような要望は前にあったが、予算の折り合いがつかなかった、自転車に乗らない人もいるので不平等だと実現しなかったそうだ。様々な意見はあるが、厚木市でできているのであれば青葉区が横浜市で先駆けて補助金を実現すれば子育て世代にはあり

がたい制度なのではと思う。

坂道以外にも青葉区には解決しなければいけない課題がたくさんあると思うが、要望を届ける窓口として、市議会議員の方がいると知った。市議会議員は選挙で選ばれた方々である。

先日、東京都知事選があり大きな話題になったが、なぜその候補者に投票したのかという質問に対して、「知名度」「いい人そうだから」「何か変えてくれそうな気がする」「その党を支持しているから」という声がほとんどであり、具体的な政策を見て投票している人がとても少ないのである。優しい人でも、支持している政党だとしても、自分とは考えが違う候補者かもしれない。だから、選挙に行って投票するときは、候補者の政策を事前に調べて、その考えに共感できる人に投票するべきだと私は思う。

慣れ親しんだ青葉区が大好きなので、もっと住みやすい街になるように、気づいたことは自分の中にしまっておくのではなく、まず家族と話し、区役所や市議会議員の方などに意見を届けていきたいと思う。

△ 講評 △

「青葉区はいいところだね」という言葉をきっかけに、青葉区がなぜ「いいところ」なのかを調べる中で、選挙に行きついた作品でした。そして、未来の青葉区が魅力あるまちであるためにも、選挙に参加して自分たちの声を届けていきたいという思いが伝わってきました。このコンクールをきっかけに、これから自分たちの住むまちのことを考え続け、「みんなが帰ってきたいまち」になるよう一歩一歩、行動されることを期待しています。

つながる青葉区、つながる未来

あざみ野中学校 二年 岡崎 智子

私は青葉区で生まれ、青葉区で育ち、そして今なお青葉区に住み続けている。それでも学校に行くと、そうでない人も多い。そういった人々に青葉区の感想をきくと、きまつて「いいところだね」という言葉が返ってくる。私ももちろんそう思うし、ずっと住み続けたいと思っている。でもいざなぜかきかれると、上手く説明できない。では、青葉区とはどんなふう、「いいところ」なのだろう。なぜ住み続けたいと思える町なのだろう。

調べてみると、人口千人当たりの犯罪認知件数の少なさが横浜市内第一位、平均寿命が男女とも横浜市内第一位、また、公園数・街路樹数なども市内第一位であった。これを知ったとき、私は今までずっと住んでいたにも関わらず知らなかったことを恥ずかしく思うとともに、私の生まれ育ったふるさとがこんなにも安全で、平和であり、自然豊かな地であったことに大きな喜びとほこりを感じた。さらに青葉区区民意識調査によると、青葉区に「住みつづけたいし、住みつづけると思う」と回答した人は6割を超えているらしい。私と同じ思いを抱えている人々がこんなにもたくさんいると知り、うれしくなった。

こんなすてきで住みやすい青葉区に未来までずっとずっと発展し続けてほしいけれど、具体的にはどうしたらいいのだろうか。思いうかんだのは、地域との関わりを増やし、知識を深めていくことだった。でも私の周囲にはそんな機会は多くない。それでも驚くことに意識調査で「地域と関わりたい」と答えた人は8割もいた。こういった人たちの要望は、どう生かしていけばよいのだろうか。考えてみると地域イベントは開催できる回数にも限りがある。もっと確実に地域と関わる機会が必要だ。

さらに深めて探求していくと、「選挙」という方法があると気づいた。すでに青葉区は選挙投票に関する順位が高い。しかも選挙に積極的に参加していけば、自分の声が必ず青葉区に届く。「どうせ意見をきてもらえない」と考えている人も安心して参加できる。

又青葉区の年少人口が市内第二位ということ配慮した上で考えると、子供たちにより青葉区のことを知ってもらうきっかけを作る活動を行うことも大切だろう。私も今回、青葉区のことを詳しく調べたことで多くの発見をすることができた。でも現在そういったきっかけは少ない。学校の授業の中で、青葉区について学び、少しでも触れていく機会をつくっていくといった環境づくりが大切だ。

選挙に積極的に参加すること、子供たちに自分のふるさとについて考えてもらうきっかけをつくる環境づくりをすることは、「今」の青葉区を改善し、「未来」の青葉区にも成長し続けてもらうことにつながっていく。そしてそれは「みんなが帰ってきたい町」青葉区への第一歩にもつながるのだ。

去年の夏休み、社会の課題として『身近な地域の調査』というレポートを作成しました。僕は『鶴見川沿いになぜ畑が多いのか?』というテーマで調べました。調べていくと、その緑の豊かさこそが青葉区の魅力なのだと感じ、この街並みを未来へ残したいを考えることになりました。

お気に入りの場所である鶴見川沿いが、田畑広がる自然豊かな場所であることは経験からも分かるし、去年のレポート作成でも、青葉区は最も田んぼの耕地面積が広いことは調べていました。

とはいえ、実際には青葉区がどのくらい緑が豊かな地域なのか?それを知るために青葉区のホームページを調べてみました。すると、『街路樹の多さ』『公園の多さ』『柿などの果樹栽培農家数』『田の耕作地面積』など、自然の豊かさを表すいくつも項目で市内一位になっていました。特に街路樹に関しては圧倒的な多さでした。

このように、自分の印象だけでなく、数値としても青葉区が緑豊かな整然とした街並みが広がっていることを知ることができました。

しかし、一つ気になるデータがありました。それは『青葉区の人口・世帯・一世帯当たりの人員推移』についてです。これを見ると、一世帯あたりの人数は減っているのに、人口・世帯数は少しずつ増えているのです。これは、青葉区では宅地開発が進んでいることを表している。つまり、緑や自然が減っているのでは、と心配になりました。

では、この街並みを未来は残していくためできることは何だろうか?と考えました。

春休みに家族と鶴見川の土手を歩いていると、土手に植えられた桜の木を手入れしている集団と出会いました。その人達は植木職人ではなく、年齢層の幅広い一般の方々でした。お話を聞くと、ボランティアで桜の木を植樹して手入れをしているとのことでした。ある高齢の方は、「この桜が成長して立派に咲く頃には私はもうこの世にいないなあ。だから若い人達にこの活動に参加してもらいたい。」話していました。

このような身近な活動こそ、地元の街並みを残す方法ではと感じる経験でした。この活動をされている人達のバトンを受け継いで、更に未来へつなげたいと思いました。そしてこのような取り組みまで目を配り、支援してくれるような議員を応援したいです。4年後、選挙権を持ったとき、応援したいと思える立候補者が現れるのか楽しみです。

青葉区に生く僕らの未来のために

市ヶ尾中学校 三年 菰田 悠叶

僕は横浜市青葉区に生まれ、その後海外で過ごした数年間を除いて青葉区で育ってきた。家の近所は数多くの公園や緑道があり、緑豊かな環境である。春にはてんとう虫、夏にはセミ、カブトムシやサツキの花に囲まれ、小川にザリガニ釣りに行ったり、メダカを連れて帰って育てたり、四季の移り変わりを感じながら時を過ごした。

幼少期は最寄り駅から少し離れていたところに住んでいたため、車で出掛けることが多く、頻繁に「こどもの国」や「寺家ふるさと村」を訪れていたことを覚えていて。「青葉区って広いなあ」と子どもながら思っていた。小学生の頃は、ボランティアで登校を笑顔で見守ってくれるおじいさん、おばあさんがいた。地域の人々の協力で、安心して学校に通うことが出来た。中学生になって駅の近くに住むようになり、電車やバスで移動することが増え、都心へのアクセスも比較的良いことに気がついた。

このような環境で育った僕が、「未来の青葉区がどのようなようになって欲しいか」「そのために、自分達に出来ることは何か」を考えてみた。

まず、未来の青葉区は、区民の憩いの場や交流が出来る場がこれまで以上に確保されている地域であってほしいと思う。例えば、緑の豊かさを活かしたキャンプ場があればいい。また、最近増えつつある外国人居住者と気軽に交流出来る場所があると非常に面白い。外国人居住者が抱えている青葉区への印象がどのようなものなのか、非常に興味がある。そのような具体例を挙げ始めると枚挙にいとまがないので、そのような未来の青葉区を実現するために自分達が出来ることを考えるため、現在の青葉区について調べてみた。まだまだ若い区であることや、中高生が中心となって活動する「あおば未来プロジェクト」という団体があることなど、「青葉区のあゆみ」を読んで初めて知ることばかりだった。また、青葉区には7名の市議会議員がいて、昨年選挙が行われていたことも今回初めて知った。数年前の横浜市長選挙については記憶に残っているが、横浜市議会議員選挙については何も知らなかった。調べてみると、自分達の生活にかかわる重要な事項は市議会で決定されているということが分かった。市長が決めているものだと思っていたので、非常に驚いた。

今回、未来の青葉区について考えたり、現在の青葉区について調べたりする過程を経て、より良い青葉区を実現するためには、まずは自分達にとって最も身近な代表である市議会議員を選ぶプロセスに参加することが重要だと考えるようになった。18歳になって選挙権を得られたら、各候補者の主張が政策提言を可能な限り理解するように努めた上で、是非市議会議員選挙に参加して投票したいと思う。

どの年代の人も幸せな青葉区へ

市ヶ尾中学校 三年 中村 凌世

青葉区と聞いたとき、青葉区に住んでいる私たちは何を思い浮かべるのだろうか。田んぼや公園などの緑、人気のお店やお気に入り場所など、いろいろなことをそれぞれが思い浮かべるだろう。そんないろいろなことには実は日本でも誇れることがあり、これが僕が思う未来の青葉区をよくしていくことにつながると思うことだ。そしてそれは、青葉区の人たちはとても「長生き」ということだ。

「長生き」といわれても、今の日本は少子高齢化社会といわれているのだからあたりまえだろうと考える人も中にはいるかもしれない。しかし、青葉区の「長生き」は他の地域と比べても長く、実際に調べてみると、男女の平均寿命八十三・三歳ととても高く特に男性の平均年齢は全国が八十・八歳なのに対して青葉区は八十三・九歳で全国二位もの長寿命ということが、二〇二三年というとても最近のデータから分かった。僕はちょうど半年ほど前のニュースで平均寿命のランキングが出ていて青葉区が上位に入っているのは知っていたが実際にここまで長いとは知らなかったためとてもおどろいた。確かに、青葉区は病院が多く医療施設が整っていたり、老人ホームなども多くお年寄りを介護する施設が整っているのはもちろんだが、なぜ僕がここで未来のために私たちができることでこの「長生き」を挙げたかだ。

それは、僕がお年寄りが多いから大変、ではなく、この事実にならぬの対策をすることで私たちが今後長生きをしても、どの世代でも楽しめる青葉区が来るのではないかと考えたからだ。

例えばどのようなことをすればお年寄りを助けられるだろう。法律など広い目でみれば「介護保険法」や「老人福祉法」など社会で支えようとする動きはある中、青葉区ではどうなのだろう、平均寿命が長い中具体的対策はできているのだろうか。実際に調べてみると介護保険サービスや高齢者の施設サービス、例えば軽費老人ホームなどある程度の対策はしているが、「長生き」する青葉区民を支えられているかがさだかなのが今の現状だからこそ、小さな私たちから今の生活を変えていき、段々と町から区へと広げていくことでよりよくなっていくのではないかと僕は思う。例えば、小、中学校が老人ホームの人たちと関わる機会をつくるなど、お年寄りの生活を知るチャンスを増やしてもいいと思うし、区でいえば、極端にはなるが老人ホームを無償化にするなど少しずつ変えていくことで「長生き」する区の人たちを支えられるのではないかと僕は思う。

人生百年時代といわれる今、年をとったとたんに人生が楽から苦にかわってしまふわけにはいけない。だからこそ、「長生き」をする青葉区民が長生きして良かったと思えるような町づくりを私たちが積極的に行っていくことで、青葉区の未来がより明るくなり、活気ある町になるのではないかと僕は思う。

生まれ育った青葉区

市ヶ尾中学校 三年 濱田 早紀

私の住む横浜市青葉区。区政が施行されたのは一九九四年で緑区と港北区の再編により分区し誕生した青葉区。今年ちょうど三十周年。比較的新しい街の印象だ。

私の父も母も関西の出身で二十年前にこの青葉区に引っ越して来たが、まず青葉区に絞り転居先を探したと言う。全国的で有名な青葉区。友人に「かの有名な青葉区に行くの？」とうらやましがられたらしい。

一九六六年東急田園都市線が開通、首都圏への通勤も便利で、治安もいい、街並みもきれい、三拍子そろっている。青葉区の当初からの運営に関わってきた人たちはどのような思いを持っていたのだろうか。現区長の言葉に「青葉区は豊かな自然と美しい街並みとともに長寿の街とも知られ、多世代によるさまざまな活動が活発に行われている活気に満ちた区」とある。ここは豊かな自然と、美しい街並み、子育てには最高の所だと思う。

私は産まれた時から青葉区民である。家族で唯一の生粋の青葉区民だ。私は小さい頃から鳥が好きで、よく父が鶴見川に野鳥を見に連れて行ってくれた。たった一度だけ、青葉区役所の近くで、最も愛する空飛ぶ宝石カワセミに遭遇できたことがあり、一瞬ではあったが感動したことは今でも覚えていいる。寺家ふるさと村ではホテルを見たこともある。こどもの国は幼少の遠足と週末の散策、冬はスケート、巨大ケージのインコ園、とお世話になった。こんなに近場で自然の中で貴重な経験をさせてもらえた街。まずは自然を守るためにゴミを捨てないこと。地域の公園ボランティアのゴミ拾いに参加したこともある。今までの私が青葉区のためにしてきたことと言えばそれぐらいしか思いつかない。

この作文を書くことによって今一度考えさせられるのは、今の自分に出来ることをすることだと思う。美化活動、地域のイベントに参加する、小中学校単位での活動にするほうが個々でするより大きく意識も変わる。子どもが頑張れば、大人も頑張る、地域も動く、そうすると区政にも届く。私たち住民ひとりひとりの小さな活動が、やがて大きなものになる時に、街がまた良くなるのではないだろうか。

最終的な決定は校長、自治会長、青葉区長、横浜市長となっていくので、より良い方向になる決断をしてほしい。

私たちの青葉区

美しが丘中学校 三年 鈴木 紗英

私たちの住む青葉区は、自然が多くて、夏祭りやハロウィン等イベントはよく盛り上がっていて、平和で安全で、お店も多く、買い物には困らないし学校も通いやすい。子供向けの習い事から、お年寄りへ向けたスポーツセンターまであるし、生活に困ることの少ないすてきなまちだと思います。一見、非の打ちどころの無いすばらしい地域です。しかし、すばらしい地域だからこそ、もっと細かい部分に目を向けるべきだと思います。そうすれば、さらにより良いまちになると確信しているからです。

より良いまちとは、人によって考えることは違いますが、私の思うより良いまちは、自然が豊かで、地域のイベントが盛ん。そして、地域の方々同士交流を深められる機会が多いまちです。これは私の理想ですが、このような高い理想を主張できるのは、青葉区というまちがすでにすばらしい地域だからだと思います。なので、私の考えるより良いまちの理想は青葉区にとって理想ではなく目標であるとも言えるでしょう。

私の学校では、総合の時間に福祉について考え取り組んでいます。福祉活動では、地域のためになる活動を実現させることを目指して、自分たちで会社を設立しました。私たちのクラスでは、ユニバーサルデザインを用いてフェスを開催するつもりです。フェスで行うのは、ポッチャやオリジナルフラワーキャンドルです。ポッチャは、パラリンピックの競技にもなっていますよね。ポッチャを通じて地域の方々同士の交流の場とすることを目的としています。オリジナルフラワーキャンドルは、地域にある花屋さんに協力を求め、残念ながら売り物にならなかった花をいただき、ドライフラワーにした物を自分の好きなようにデザインしオリジナルフラワーキャンドルを製作します。これは、本来捨てられてしまう物を活用しているのです、良い福祉活動であると思います。

このような、地域のためになる活動を考え、実現させることができれば、より良に近づくと思います。例えば、あなた自身がイベントを開催させるのは難しいかもしれません。私たちも、二年かけてやっと、実現させることに現実味が出てきました。しかし、誰かによって開催されたイベントに参加すれば、あなたは地域のためになる活動をしたといえるでしょう。ぜひ、みんなで手を取り合い、より良いまちへと踏み出していきましょう。

青葉区から世界を考える

〈SDGsの意識を持つ〉

鴨志田中学校 三年 佐藤 優治

「未来の青葉区のために私たちができること」とは何か？を考えたが、そもそも僕自身が青葉区のことをほとんど知らないことに気が付いた。そこでまず僕は、青葉区の特徴を調べることにした。そうすれば「未来の青葉区のために私たちが出来ること」を本当の意味で知ることができると思ったからだ。ところが、調べらうちに思わぬところで「本当の意味」に気づくことになった。

データから青葉区の特徴を見つけることは難しい。今年区政三十周年を迎える青葉区は、横浜市では都筑区と並び最も新しい区だ。位置的に東京都のベッドタウンになっていて、人口は港北区の次に多い。近年の人口伸び率は落ち着いているため、横浜市の中では成熟した住宅地とよく言われている。横浜駅に象徴される西区のような商業地域でもなく、近年、マンション開発が盛んな都筑区のような新興住宅地でもないため、データ上は実はこれといった特徴はない。逆に言えば、データ上特徴のないのが青葉区の特徴で、強いて言うならば寺家町に代表されるように緑地を大切に作る区と言えると思う。

そこまで調べたところで、僕は大きな間違いをしていたことに気づいた。「未来の青葉区のために私たちができること」で重要なのは、実は「青葉区」を知ることではなく、「未来とは何か」を考えることだということだ。僕は常に、未来に対しすべきことは、どこにいても何をすることにしている。「持続可能な開発」、つまりSDGsの考えを持つことだと思っている。サービスは向上すべきだと思うし、世の中便利になることに異論はない。だから、自治体単位で競争することは、本来。素晴らしいことだと思っている。しかし、そこにSDGsの考えが含まれていなかったとしたら、それは世界から取り残されることになることを忘れてはいけない。

SDGsの目標十一は「住み続けられるまちづくりを」となっている。それを国を上げて取り組んでいるのが「SDGs未来都市」だ。SDGs未来都市とは、SDGsの理念に沿い経済、社会、環境の側面で日本そして世界が持続的な経済活動ができることを目指すものだ。僕たちは三年後に投票権を持つ。被有権者を選ぶ際、SDGsの観点を持ち選択することはとても重要だと僕は思う。なぜなら「未来の青葉区のために私たちができること」は、「未来の世界のために私たちができること」と同義だからだ。



青葉区明るい選挙推進作文コンクール2024入賞作品集

<発行>

令和6年11月

青葉区明るい選挙推進協議会／青葉区選挙管理委員会／青葉区役所

〒225-0024

横浜市青葉区市ケ尾町31番地4

TEL 045-978-2205~7

FAX 045-978-2410

☆入賞作品は、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページでも公開しています。

青葉区明るい選挙推進協議会

検索

主催 青葉区明るい選挙推進協議会・青葉区選挙管理委員会・青葉区役所

後援 横浜市教育委員会